

シニアの街・上海 気になるお年寄りの暮らし

中国でも、度々話題になる「高齢化社会問題」。今回は、遠いようで身近な上海での「老い」について深掘りしてみます。

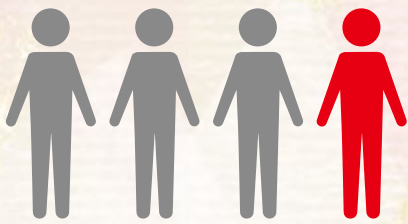
増える高齢者・伸びる退職年齢

上海市の高齢者比率は

25.9%

※2020年、上海市衛生健康委員会統計

4人に1人は高齢者



居住区別高齢者比率

| | |
|-----|-------|
| 虹口区 | 29.9% |
| 黄浦区 | 29% |
| 普陀区 | 28.8% |
| 静安区 | 28.1% |
| 長寧区 | 27.7% |

退職年齢早見表

| | 男性 | 女性 |
|-------|-----|-----|
| 2025年 | 61歳 | 57歳 |
| 2030年 | 62歳 | 58歳 |
| 2035年 | 63歳 | 60歳 |
| 2040年 | 64歳 | 61歳 |
| 2045年 | 65歳 | 65歳 |

現在の退職年齢は男性61歳、女性56歳
2045年までに、男女の退職年齢は65歳に

気になる年金・懐事情

上海市の毎月の
年金平均受給額は

4799元

※2020年、上海市老年人口和老齡事業監測統計調査より抜粋。城鎮職工基本養老金受給者が対象

VS

上海市の毎月の平均消費額は

3544元

※2020年、中国統計局調べ

年金のほかにもある
収入源

| | |
|------------|-------|
| 家賃収入 | 6.5% |
| 株など投資商品の利益 | 17.1% |
| 自分か配偶者名義の家 | 73.2% |

※2015年、上海社科院調べ

医療保険制度は
どうなっているの？

高齢者の医療保険について、上海で就業し、15年間以上年金を納めている人ならば、その保険を引き続き、保険料を納めずに利用できる。また全国的には高齢者の医療負担をゼロにする取り組みが進められている。

さらに上海の高齢者は、多くの人に持ち家があることも大きな特長。7割以上の人が自分か、配偶者名義を持つという。二貯蓄については、87.9%が20万円以下、10.1%が20〜50万円、2%が50万円以上の回答だった。ほか最近の政策では、高齢者の医療負担をゼロにしようという提言がなされている。それには解決しなければいけない問題が山積みのようにだが、高齢者がより医療サービスを受けやすい社会になっていくだろう。

では現在のシルバー世代の懐事情はどうなっているのだろうか？ 中国の年金については、都市と農村、戸籍などによって大きく異なり、格差も激しいが、上海において15年以上企業勤めをし、年金を納めた上海人の年金平均受給額は月4779元。一方、市の平均消費額は月3544元だから、市街地に暮らすお年寄りについては、余裕のある暮らしができていない人が多そうだ。

年金+アルファの暮らし

そんな高齢者で溢れている上海だが、退職年齢は比較的早い。現在は男性が61歳、女性は56歳にリタイアする。この年齢は今後段階的に引き上げられることが決定されており、23年後には男女ともに65歳で定年になる。

外国企業が集まる国際都市で、流行の発信地……。そんな印象がある上海だが、人口比率に注目してみると、全く違った面が見えてくる。2020年末、市で65歳以上の高齢者比率が占める人口の割合は25.9%。中国全体の14.2%に比べると遥かに高く、同じく高齢化社会が進む日本・東京よりも高い数字だ。区ごとの高齢者率は虹口区、黄浦区など昔から繁華街だった歴史あるエリアにシルバー世代が多いのを見て取れる。なお60歳以上までを含めると、虹口区、黄浦区、静安区、長寧区で40%を超えるから驚きだ。

シルバーの街・上海

地域の高齢者支援は？

長寧区でハイテク介護始まる

上海市長寧区では、全国に先駆けて、AIやビッグデータを使った介護・福祉サービスの導入を開始。ロボットが調理・配膳してくれる「AI食堂」はすでにオープンしているほか、高齢者がすぐに救急車などを呼べるサービスなども導入予定だ。



地域で支える高齢者

各アパートの管理委員会では、高齢者のための様々なサービスを用意。麻雀や歌・踊りが楽しめる「老年活動室」はもちろん、日帰りできる高齢者用宿泊施設「長者照護之家」なども備え、高齢者とその家族を支える。



老後はどこで過ごす？

サービス付き高齢者住宅

快樂家園



豊かな老後を過ごすための住まい



高級マンション並みの快適さ



娯楽室やイベントホールも完備

新東苑・快樂家園

デポジット 120万円~/部屋
家賃(食事付き) 1人7000元~/月

ほか老後は、上海の住まいを捨て、市近郊の介護施設に移住する人たちも増えている。年々物価が高騰する大都市から都落ちし、近郊で第二の人生を過ごすことも、これからブームになるかもしれない。

実は上海では、このような介護サービス施設に入居している高齢者はたったの3%ほどで、ほとんどの高齢者は自宅で生活し、必要に応じて子や阿姨が看護をしている。政府からの介護手当は、介護認定の段階によって異なるが、月々4000〜9500元ほど。十分な額とは言えず、金銭的な理由から、やむを得ず自宅に留まっている老人や、独居老人も増えてきており、地元の居住委員会によるサポートや、アパート内にエレベーターを設置するなど、対策が急がれている。もちろん介護施設のベッド数もまだまだ足りない状況で、こちらも今後増設されていく方針だ。

上海を脱出する高齢者も

気になるお値段は、ひと月7000元〜と、手の届かない金額ではないが、最初に有効期限10年、1200万円のデポジット兼会員カードを買う必要がある。老後の蓄えがたっぷりないと、入居は難しいだろう。

上海で余生を過ごすことを考えている人にとって、現地の介護サービスは最大の心配事だろう。今回は一番ラッキーだがお金も掛かる、サービス付き高齢者住宅を紹介しよう。閔行区、大型スーパーの向かいにある「新東苑・快樂家園」は、数ある高齢者向け住宅でもかなり規模が大きい高級住宅。まるでホテルのような美しく広い個室を備え、清掃や食事などの世話をしてくれるほか、施設内に病院やリハビリ病棟、シルバード大学、コンビニ、ミニ農場まで揃い、快適な老後生活が過ごせること間違いなしの環境だ。

豪華マンションで第二の人生